第155回 大原美術館 ギャラリーコンサート

郷古廉

Sunao Goko

ベートーヴェン ヴァイオリン・ソナタ全曲演奏会 Vol.3

BEETHOVEN : Sonatas For Violin and Piano Vol.3

シリーズ完結

©Hisao Suzuki

Program

ヴァイオリン・ソナタ 第9番 イ長調 Op.47
「クロイツェル」
＊＊＊
ヴァイオリン・ソナタ 第10番 ト長調 Op.96

ピアノ／加藤洋之
Hiroshi Kato
piano

2019年
4月6日(土)開場18時/開演18時30分
大原美術館・本館2階ギャラリー
【定員200名】
チケット発売 3月12日(火)9時～

全自由席 4,000円(税込)
学生シート 1,000円(税込)【小学生～25歳までの学生対象・限定先着30席】
※公演当日、入場時に学生証の提示をお願いいたします。

お申し込み・お問合せ

大原美術館 TEL086-422-0005 ＊月曜休館

くらしきコンサート TEL086-422-2140 ＊土・日・祝日休業

協賛 丸五ホールディングス株式会社

第155回 大原美術館 ギャラリーコンサート

郷古 廉

ベートーヴェン ヴァイオリン・ソナタ全曲演奏会 Vol.3

シリーズ完結！集大成の響き

大原美術館では2017年から、ウィーンを拠点に活躍する若手ヴァイオリニスト郷古 廉（ごうこ・すなお）さんの「ベートーヴェン ヴァイオリン・ソナタ全曲演奏会」シリーズ（全３回）を毎春開催してまいりました。
今回はその最終回、名曲《クロイツェル》（第9番）とラスト・ソナタ第10番をお聴きいただきます。
第9番は、ベートーヴェンがヴァイオリニストとの演奏会用に書いた作品で、最終的に献呈されたフランスの名ヴァイオリニスト、クロイツェルの名が通称となっています。
この合奏スタイルにおいて、それまでピアノ演奏の陰に隠れがちだったヴァイオリンの存在を格上げし、両者が対等に渡り合う“協奏曲”のような姿に発展させた、音楽史上画期的なソナタでした。
クロイツェル・ソナタから9年後に書かれた第10番は、彼の最大の支援者ルドルフ大公に捧げられた、優しさに満ちた音楽です。
音を失った世界に絶望して“遺書”まで書いたベートーヴェンが、芸術音楽に目覚め、次々と傑作を発表していった時期の創作。
交響曲などとはまた趣の異なるベートーヴェン音楽の深い精神性とロマンを、親密なアンサンブルでお楽しみ下さい。
この3年間ベートーヴェンに向き合い続けてきた郷古さんと、演奏パートナーを務めたベテランピアニストの加藤洋之（かとう・ひろし）さんは、出会いからすでに10年。
互いの音楽性に共感と敬意を表して、揺るぎない信頼関係で演奏を磨き上げてこられました。
その集大成ともいうべきシリーズ完結公演です。皆様のご来場をお待ち申し上げます。

©Hisao Suzuki

郷古 廉（ヴァイオリン） Sunao Goko, violin

1993年、宮城県生まれ。2006年第11回ユーディ・メニューイン青少年国際ヴァイオリンコンクールジュニア部門第1位（史上最年少優勝）。2007年12月のデビュー以来、新日本フィル、読売日響、東響、東京フィル、日本フィル、大阪フィル、名古屋フィル、仙台フィル、札響、アンサンブル金沢ほか各地オーケストラと共演。指揮者ではゲルハルト・ボッセ、秋山和慶、井上道義、尾高忠明、小泉和裕、上岡敏之、下野竜也、山田和樹、川瀬賢太郎各氏などと共演している。国内各所でリサイタルをおこなうとともに、2011年、2012年、2014年と《サイトウ・キネン・フェスティバル松本》でストラヴィンスキー作曲「兵士の物語」に出演。《東京・春・音楽祭》、《ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン》にも招かれている。現在、ウィーン私立音楽大学で研鑽を積みながら、ドイツ、フランス、スペイン、スイス、イタリア、チェコなどでも演奏活動を展開している。これまでに勅使河原真実、ゲルハルト・ボッセ、辰巳明子、パヴェル・ヴェルニコフの各氏に師事。2014年にEXTONレーベルより無伴奏作品でCDデビュー。2015年にはnascorレーベルよりブラームスのヴァイオリン・ソナタ集を、2016年11月にはEXTONレーベル第2弾となるバッハとバルトークの作品集をリリースした。2013年ティボール・ヴァルガ シオン国際ヴァイオリン・コンクール優勝ならびに聴衆賞・現代曲賞を受賞。使用楽器は、1682年製アントニオ・ストラディヴァリ（Banat）。個人所有者の厚意により貸与されている。

加藤 洋之（ピアノ） Hiroshi Kato, piano

東京藝術大学附属音楽高校を経て同大学を首席で卒業。大学院在学中の1990年にジュネーヴ国際音楽コンクール第3位に入賞し、ハンガリー国立リスト音楽院に留学、その後ドイツ・ケルンでも研鑽を積む。これまでハンガリー国立響、ブダペスト・フィル、ブルガリア国立放送響、ヘルシンボリ響、東京都響、日本フィルなど内外のオーケストラとの共演、ウィーン芸術週間、プラハの春、ルセ国際音楽祭、リムーザン室内楽フェスティヴァルなどの音楽祭や、ウィーン楽友協会、ウィグモア・ホールをはじめヨーロッパの主要ホールへの出演など各地で演奏活動を続けている。ウィーン・フィルのメンバーたちとは頻繁に室内楽を演奏し、特にライナー・キュッヒル氏（元第1コンサートマスター）のデュオ・パートナーとして、1999年から現在まで国内外で共演を重ねている。